

5月3日「^{そうかがっかい}創価学会の日」

^{どうにゅうぶ}
導入部

「5月3日」は、^{とだせんせい}戸田先生、^{いけだせんせい}池田先生が、^{だいにだい}第二代、^{だいさんだい}第三代の^{かいちょう}会長に^{しゅうにん}就任した日です。

^{でし}弟子である^{わたし}私たちは、^{こうせんるふ}広宣流布の^{ため}為に^{かんぜん}敢然と^{ひとりた}一人立った^し師の^{おも}思いを^わ我が^{こころ}心として、^{こうふせいがん}広布誓願の^し師子となつて^あ立ち上がりたい。

今回は、5月3日「創価学会の日」の^{いぎ}意義を^{まな}学んでいきましょう。

1枚目シナリオ （8枚目の絵の裏に貼る）

5・3「^{そうかがっかい}創価学会の日」

^{とだせんせい}戸田先生が^{だいにだい}第二代^{かいちょう}会長に^{しゅうにん}就任されたのは、^{しやうわ}昭和26年（1951年）5月3日のことでした。

また、^{いけだせんせい}池田先生が^{だいさんだい}第三代^{かいちょう}会長に就任されたのも、昭和35年（1960年）5月3日のことでした。

5月3日は、創価学会が、^{あら}新たに^{しき}第二代・第三代の会長の^{しゅっぱつ}指揮のもと^{かいし}出発を開始した日であり、学会の^{ほんかくてき}本格的な^{はってん}発展のスタートとなった^{きねん}記念すべき日なのです。

2枚目シナリオ （1枚目の絵の裏に貼る）

^{とだせんせい}戸田先生の^{しゅつごく}出獄～^{がっかいさいけん}学会再建に^{ひとりた}一人立つ

^{せんじちゅう}戦時中、^{ぐんこくしゅぎ}軍国主義の^{だんあつ}弾圧によって^{まきぐちせんせい}牧口先生とともに^{とうごく}投獄された^{しやうわ}戸田先生は、昭和20年(1945年)7月3日に^{しゅつごく}出獄されました。そして、“この^よ世から、^{ひきん}悲惨の^{にじ}二字をなくしたい”と、ただ一人、^{そうかがっかい}創価学会の^{さいけん}再建に立ち上がったのです。

3 枚目シナリオ （2 枚目の絵の裏に貼る）

師の最大の苦境を一人、支え抜く

戦後の経済混乱のあおりを受けて、経営していた事業が暗礁に乗り上げると、戸田先生は、学会の理事長を辞任します。弟子たちが次々と去っていく中で、池田先生は、学業を断念し、一人、苦境に立たされた師を支え抜きました。この間、戸田先生は、万般にわたる個人教授で愛弟子を薫陶します。この個人教授を、後に池田先生は「戸田大学」と呼ばれました。

若き池田先生は「断じて戸田先生に会長になっていただくのだ」との決意で、事業の活路を開くため、命がけで戦います。そして、第二代会長就任への道を開いていきました。

4 枚目シナリオ （3 枚目の絵の裏に貼る）

第二代会長就任と願業の達成

昭和26年（1951年）5月3日、ついに戸田先生は、晴れやかに第二代会長就任の日を迎えられました。席上戸田先生は、「私が生きている間に、75万世帯の折伏は私の手でいたします」と宣言します。

当時、創価学会の会員数は、約3000人——誰もが耳を疑いました。しかし、若き池田先生は、一人深く決意していました。

戸田先生の期待に存分に応える池田先生の大闘争が突破口となり、昭和32年12月、創価学会は75万世帯を達成。願業を果たされた戸田先生は、翌年の4月2日に尊いご生涯を閉じました。

5 枚目シナリオ （4 枚目の絵の裏に貼る）

池田総務の奮闘と「七つの鐘」

戸田先生の逝去に際し、一部のマスコミは「学会は空中分解する」などと書き立てました。

当時、青年室長であった池田先生は、翌月の5月3日に、「七つの鐘」という構想を発表しました。7年をひとつの節として広宣流布へと進む展望は、学会員に大いなる希望を与えるものでした。

ほどなく、池田先生は、創価学会のただ一人の総務として、学会の実質的な責任を担い、日本各地をめぐり、会員の勇気と確信を奮い立たせていきました。

6 枚目シナリオ （5 枚目の絵の裏に貼る）

第三代会長の就任

“池田先生を新しい会長に”との、全国の学会員の声は日に日に高まっていきました。戸田先生の三回忌にあたり、理事長たちからの度重なる就任要請を受け、池田先生はついに就任を承諾します。

昭和35年（1960年）5月3日、32歳であった池田先生は、第三代会長就任の日に次のように決意を述べられました。

「若輩ではございますが、本日より、戸田門下生を代表して、化儀の広宣流布を自指し、一歩前進への指揮をとらせていただきます！」。

この日から、池田先生の指揮のもと、創価学会は怒涛の大前進を開始したのです。

7枚目シナリオ（6枚目の絵の裏に貼る）

「創価学会母の日」と「創価学会後継者の日」

5月3日は、「創価学会母の日」でもあります。これは、「“広布の母”である婦人部の皆さまを最大にたたえ、その労を顕彰する日としてはどうか」と、池田先生が提案されたことから始まった記念日です（昭和63年4月の第1回全国婦人部幹部会）。

また、5月5日は、「創価学会後継者の日」でもあります。池田先生はこの日の意義について、「5月3日の『創価学会の日』に続く重要な日である。一切の建設は『人』で決まる。『人』といっても、若い世代に託す以外にないからである」と語っています。

8枚目シナリオ（7枚目の絵の裏に貼る）

「5・3」は「師弟不二の魂の日」

戸田先生は、会長就任の日に立てた「75万世帯」の願業を達成しました。

池田先生は、192カ国・地域に及ぶ世界に日蓮大聖人の仏法を広げ、戸田先生のご構想を全て実現されました。「5・3」には、師匠のご構想を何としても実現させてみせるという「師弟不二の精神」が刻まれています。

私たちもこの5月から決意も新たに、「師弟の勝利は弟子で決まる」との自覚で前進していきましょう。

決意 など